

リーディングDXスクール事業【実践事例】

東大阪市立布施小学校【指定校】

【取組内容】 カメラ機能を用いた「気づく力」と「つなぐ力」の育成

【課題設定】

・自分の動きと、友達の動きや動画教材の動き、動きのポイントなどを比べて、より良い動きを身につける。

【情報収集】

・自分の動きを動画で撮影する。
・撮影した動画を友達や先生に見てもらいアドバイスをもらう。
・同じ技に挑戦している友達や動画教材を見て、技のポイントの情報を集める。

【整理・分析】

・同じ技に挑戦している友達や、動画教材やポイントなどと自分の動きを比較して、自分のより良い動きにつながる情報を整理する。

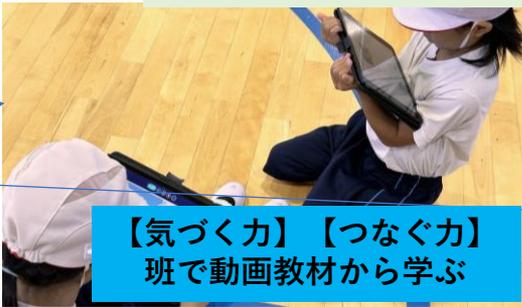
【まとめ・表現】

・整理・分析で見たポイントを意識して、技に再挑戦する。
→次の課題が出てくるので、課題設定に戻る。
→技の完成度が十分になったら、次の技にチャレンジする。

【ふりかえり】

・スプレッドシートにふりかえりを記入し、次の学習につなげていく。

実践例3年生『マット運動』



【気づく力】 【つなぐ力】
班で動画教材から学ぶ



【気づく力】 動画を撮影



【気づく力】 動画を撮影



【つなぐ力】 動画をもとに話し合う



【気づく力】 【つなぐ力】
共同編集での振り返り



【気づく力】 次の課題を設定

【取組み内容】校務DX（業務や実践の情報にグループチャットを日常的に活用）

校務におけるチャットの活用が授業改善につながる

まずは慣れる
～研修で学びを随時アウトプット～



アドバイザーの研修を受講しながら、大事なことや感じたことをチャットにアウトプットしている。ただ聞いているだけでなく、自分ごととして研修に参加できる良さがある。チャット機能を今後教員がどう活用していくかを考えるための機会としても効果的である。

職員同士がつながる
～資料や授業実践などの情報を即時共有～



教員だけでなく、アドバイザーや指導主事もグループチャットに参加し、授業の実践アイデアを日常的に共有している。つまり、情報が集まる場となり、クラウドを活用することで「非同期・分散」で、効率的に学ぶことができる。



資料は事前に共有されているので、ペーパーレスで印刷時間等の短縮につながる。また、常に最新の情報を職員で共有することができるだけでなく、チャットのやりとりの記録が残っているので、会議に参加できなかった教職員も後日振り返ることが可能になり、大いに役立っている。

校務におけるチャットの活用は教職員間で授業のアイデアや実践事例を迅速かつ手軽に共有できる。効率化されて生み出された時間を活用して教材研究等に充てることが可能となり、授業改善が促進される。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

東大阪市立布施小学校【指定校】

【取組内容】『学び方を学ぶ』子ども主体の学びに向けた初期指導（小学校1年）

①学習課題（手引き）を提示

10月28日（月） めあて なつとどこがかわったかかんがえよう。

きょうのゴール
◎あきになって、かわったところをかんがえることができる。

じゅぎょうのながれ
①めあてのかくにん
②あきになって、かわったところを見つける（きょうかしょ・そののけしき）
③スライドにかわったところをかく。
④なかまわけをする
⑤ふりかえり

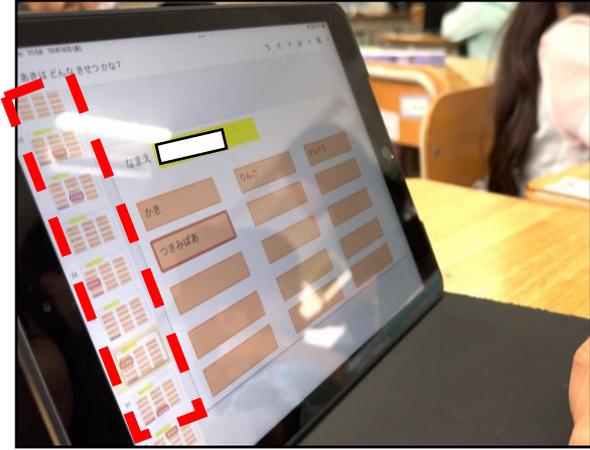


10月28日（月）
Google スプレッドシート

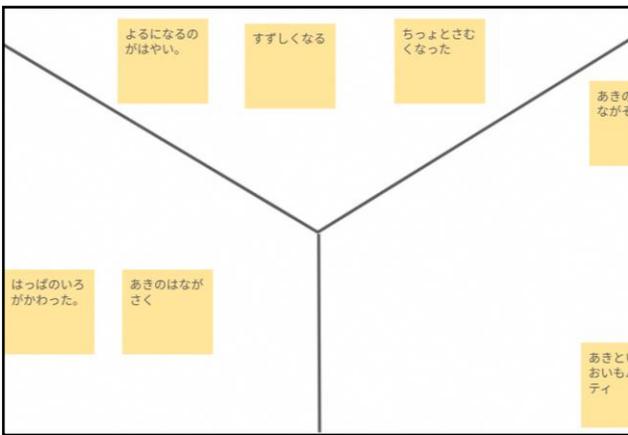
②表計算シート（プルダウン）

じぶんのめあて	まなびかた	
		きょうのじゅぎょうで、〇は、～だともいいました。つぎは、〇〇をかんがりたいです。
5つじょう見つける	ひとりでかんがえる	ともだちとかんがえたけどともだち
5つじょう見つける	何を学び、誰と学ぶか	
5つ見つける	ともだちとかんがえる	

③他者の考えが参照できる環境



④各思考ツールの使い方を学ぶ



- ①学習の流れを提示し、見通しを持たせる。児童が、見通しを持つことで、ゴールまでの道筋を意識するようになる。
- ②1年生はタイピング入力がまだ難しいので、学習の手引きをもとに、『めあて』や『誰と学ぶ』かをプルダウンで選択する。
- ③他者の考えが参照できる環境に慣れる経験を積み上げていく。共同編集する際のルールなども学ぶ。
- ④思考ツールは、自分の考えを『整理・分析』する際に有効なツールである。各思考ツールの使い方を、各教科で丁寧に指導し、使い方を学ぶ。

子どもが主体的に学ぶために、低学年においては、丁寧な初期指導が必要である